

鈴鹿病態薬学研究会 第3回研究会

平成25年9月5日 鈴鹿医療科学大学薬学部（白子キャンパス）



演題 抗体医薬創製技術の開発と創薬への応用

講師 きたざわ たけひさ
北沢 剛久（中外製薬株式会社 研究本部）

抗体医薬品は、これまでに約40の抗体医薬品が上市され、がんや自己免疫疾患などの治療に用いられている。現在、数多くの企業が抗体の新たな医療上の価値を創生する技術革新に取り組んでおり、更なる医療への貢献が期待されている。

本講演で北沢先生は、抗体医薬の歴史のほか、新しい2つの抗体産生技術（非対称型 bispecific 抗体および recycling 抗体）や実際にそれら技術を用いて開発された医薬品の臨床データを紹介された。また最後に、医薬品メーカーの立場から産官学の連携の必要性を強調され、医薬品の開発が、企業のための仕事で行われているのではないことを訴えられた。

講演会を聴講した約30名の参加者からは、抗体医薬の将来性を改めて認識したなどの感想が聞かれ、抗体医薬の最前線と今後の難病克服に向けての研究・開発の進展が多いに期待される講演であった。

講演会場の風景（1303号室）

